

作品が完成するまで

作成日: 2025/1/24
対象児: かえで組 5歳児
作成者: 小城亜矢子

ねらい: 自分のイメージを表現しながら製作していく楽しさを味わう。



振り返り

作品展に向けての絵画は、読んでいて歓声が上がった「モチモチの木」。勇気がある子にしか見ることができない光景を絵にします。この絵本は切り絵が素敵なのですが、かえで組では夏に経験した手漉き和紙の要領で、紙と洗濯のりと一緒に細かく攪拌したもので形にしました。「木って上の方が細いよな」「枝がいっぱいある方が気持ち悪いよな(←いい意味です)」と、いかにこの絵本に出てくるオバケのような木になるのか面白がりながら取り組みました。絵本だけでなく、実際の木を見るとよりイメージが湧くかなと思って、園庭の桜の木も観察しました。

11月に親子遠足で行った「のいち動物園」を参考にした個人製作のテーマは『夜の動物園』です。自分で何を作りたいかを決めていたので、どんなポーズにするのか、どうやって作っていくのかまで、子ども達が自分で調べたり考えたりしました。「指を5本にしたいけどどうすればええかわからん」「片足あげたいのに、転ぶ...」と困った時に、作り方を提案したり、一緒に重心を変えたりしました。図鑑や絵本、パンフレットなどを近くに置いてあるので、確認しながら取り組んだ子ども達です。何度やっても満足できなかったり、手が絵の具まみれになったりして、「はあ〜」と気持ちが途切れそうになると、近くにいる友達が「どしたん？手伝おか？」「おお！もう少しで完成じゃなあ」と励ましあう姿に、作品展は作品を仕上げるのが目的ではなく、その過程にすごく大きな意味があるなと感じます。友達や先生の手も借りながら試行錯誤して仕上げた経験は、きっと自己肯定感にもつながるし、友達の良さにも気付けたはずです。

ぜひ作品展では、作品を褒めるだけでなく、ここに至るまでの子ども達の姿を想像して楽しんでもいただけたらと思います。(自立心、協同性、思考力の芽生え、自然との関わり、言葉による伝え合い)